

大鹿村中央構造線博物館たより

147号



2021年8月発行

TEL:(0265)39-2205

北川分校跡地の現在の様子

先日、三六災害のときの北川分校の写真を眺めていて、こんな場所あったかな?と少し疑問に思い、実際に現地に見に行ってみることにしました。当時とは様子が大きく変わってしまっているらしいので、事前に当時の写真(写真1)と、Google Earthの画像を見比べてみて、おおよその位置を確認しました(写真2)。Google earthの画像を見ると、写真右側に斜面安定工事の白いボルトが見えることから、国道152号線北川露頭の手前、現在う回路ができているあたりの鹿塩川右岸(西岸)側のようです。



写真1

土砂に埋まった北川分校(写真中央より少し下の横長の建物)

※「語りつぐ濁流の子」アーカイブス(<http://lore.shinshu-u.ac.jp/>)より引用。

※「昭和36年6月32日:建設省」とキャプションが付いているが32日はないので、正しい日付は不明。



写真2

Google Earthで写真1と同じ場所を表示させてみた画像



写真3

現在の北川分校跡付近の様子

写真1下の家のあった辺り?から撮影



写真4

写真1下の家のあった辺り?の石垣

写真3は、現地付近の様子です。川は東寄りに流れており、かつて土石が覆っていたあたりは、木が生い茂って、林になっていました。写真4のように、わずかに石垣が残っており、人間の生活の跡が見られました。



写真5

砂防ダムの残骸?

続いて、上流に向かって歩いて行くと、砂防ダムの残骸?が見つかりました(写真5)。鹿塩川では昭和初期から砂防工事が始まっているようなので、36 災害の前からあった施設なのかもしれません。コンクリート構造物は、数十年もたてば、メンテナンスが必要になってしまうのだと、改めて感じました。

もし、北川分校について詳しい方おられましたら、上記の内容で、間違っているところなどありましたら、ご指摘いただければ幸いです。また、現在博物館では、三六災害のときに大鹿村内で川が氾濫した範囲などを再確認する作業をしております。当時の状況について、情報をお持ちの方は、ご連絡をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いたします。(宮崎)